

新しい道 豊かな里山 花と農の稲枠

—稲枠地域活性化基本計画—

令和6年3月

下田市

目次

序章 はじめに.....	1
1章 地域の概要.....	3
2章 上位計画等.....	13
3章 地元ワークショップでのご意見.....	17
4章 課題と本計画における取組の方向性.....	20
5章 活性化方針.....	22
6章 活性化プロジェクト.....	24
7章 実施スケジュールと実施体制.....	33

参考資料

- ・ 計画策定の経緯
- ・ 計画策定体制
- ・ 検討委員会報告文書
- ・ 地元ワークショップ資料

序章 はじめに

1) 計画策定の背景と目的

下田市（以下「本市」という）は、昭和30年に6か町村（下田町、稲梓村、浜崎村、白浜村、朝日村、稲生沢村）が合併して下田町となり、昭和46年に市制を施行して、現在に至っている。

下田市域の生活環境は、ウミ・ヤマ・マチに三分され、太平洋に面したリアス式海岸に点在するウミの集落、ウミから一気に山麓部に連なり、谷々にまとまるヤマの集落、両者を結ぶ中心に下田の市街、マチが広がる。伊豆半島の先端部に属する下田は、古くから東西交通の要所に位置し、近くを黒潮が流れ、好漁場を有していたこともあり、海を糧に生きてきた。その中でヤマの集落では、マチ・ウミへの食料の供給や江戸・東京へ供給する伊豆石、木炭等の生活必需品の生産地として機能してきた。

稲梓地域は、ヤマの集落に分類され、稲作農業を中心としながら、現金収入を得るための「農間渡世（農民が耕作の合間に行う賃稼ぎや営業）」が必要であり、木炭を中之瀬（稲生沢立野）に運び出して換金していた。

そのような中、昭和36年の伊豆急行線の開通を契機に観光客が増加したことから、本市は、天城山系から連なる豊かな緑や、約47kmに及ぶ起伏に富んだ海岸線をはじめとする、本市を特徴づける美しい景観や、開国の歴史などを活かした観光地として進出し、個性を磨き、近年では、ワーケーションなどによる関係人口の増加におけるにぎわい創出を進めている。

稲梓地域においては、都市化とともになりわいの兼業化が進行し、人口減少と少子高齢化による地域力の衰退、森林環境の荒廃、耕作放棄地の増加等といった地域変化が起きている。

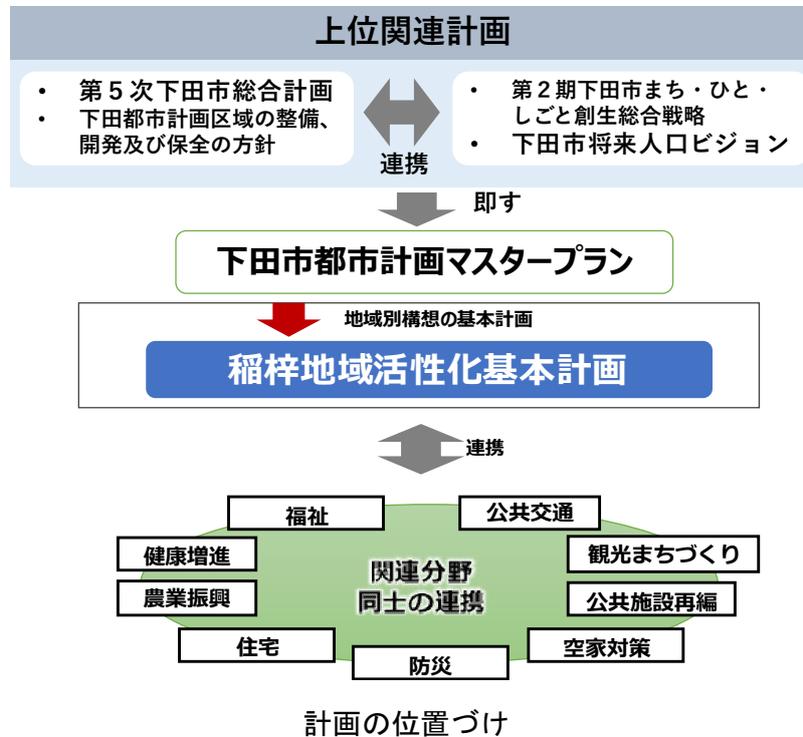
一方、伊豆縦貫自動車道の整備が進み、産業面にも新たな取組があるなど、地域活性化に向け、様々な前向きな変化がある地域でもある。地域の個性の魅力を高め、地域が誇りを持ち、訪れる人々に感動を与えられるような、時代に沿った新しい地域づくりの方針の策定が求められている。

そのような中、本計画を策定していた最中である令和6年1月に能登半島地震が発生した。同じ地形を持つ半島として、広域的視点も踏まえつつ、災害に備えた対策を平時における活性化と並行して実施してこそ本腰を入れて活性化に取り組めると改めて意識した。

そこで、稲梓地域において、伊豆縦貫自動車道を始めとする基盤整備の促進、大規模災害に備えた対策を進めながら、既存資源の活用を図るとともに、様々な新しい施策を取り入れながら、それらと調和する活気あるまちを形成して、住民が暮らしやすく、かつ、来訪者が楽しむことのできる環境づくりを進めるため、稲梓地域活性化基本計画の策定を行う。

2) 計画の位置付け

本計画は、下田市都市計画マスタープランにおける地域別構想の地域活性化に向けた基本計画として位置付ける。

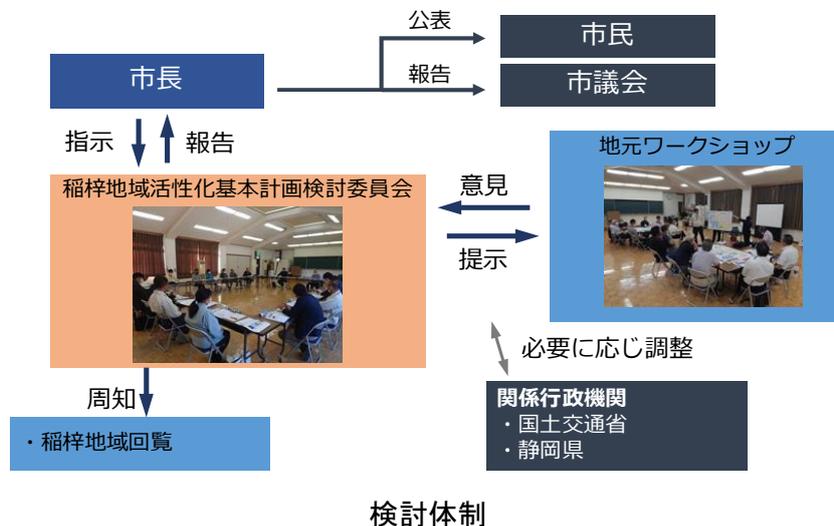


3) 計画期間

本計画の期間は、令和6年度から令和15年度までの10年間とする。なお、5年後の令和11年度に中間見直しを行う。

4) 計画策定の体制

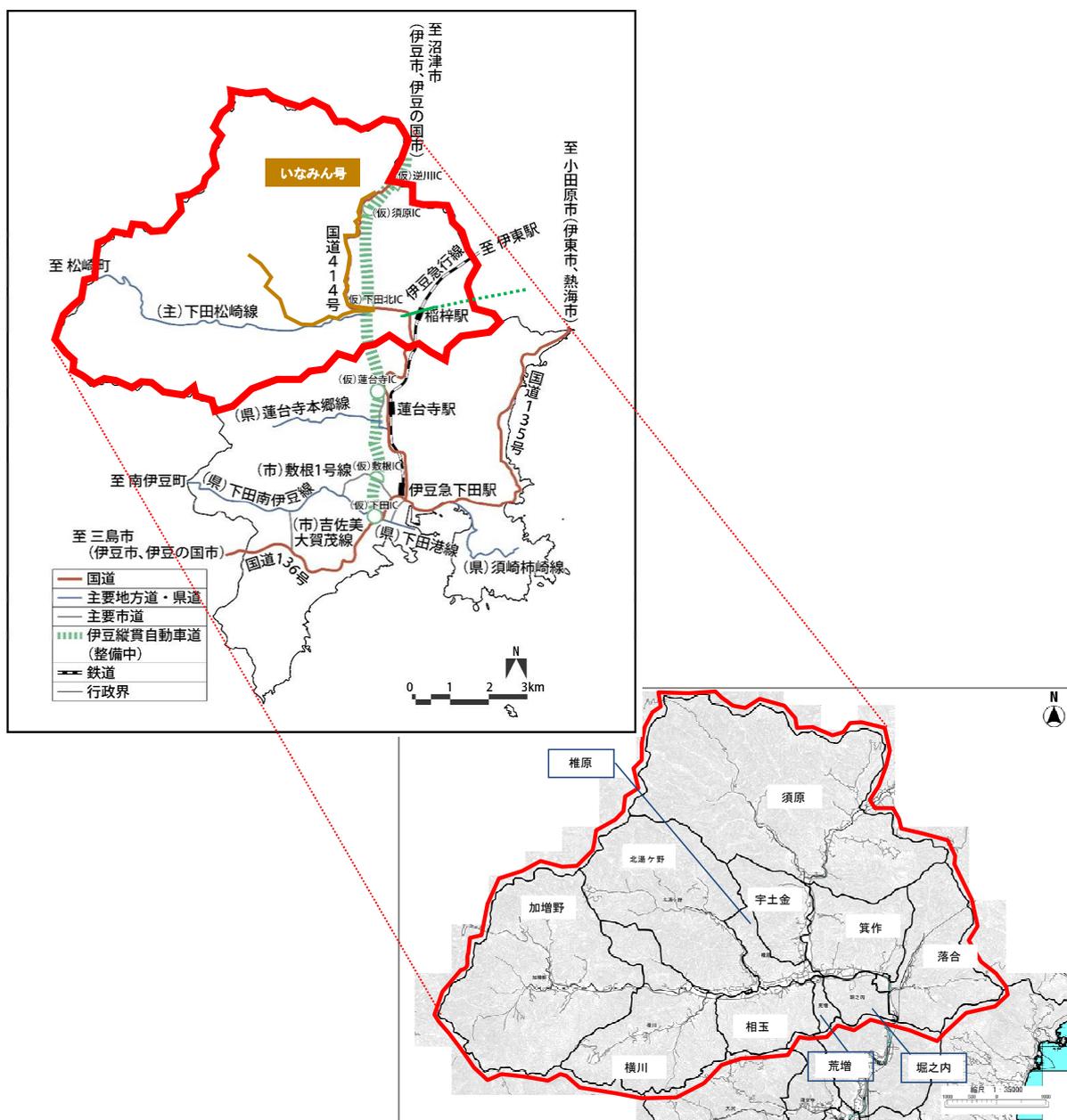
本計画は、市民・学識者・各種団体・行政からなる「稲梓地域活性化基本計画策定検討委員会」や地域住民等ワークショップなどを実施、以下の体制で策定した。



1章 地域の概要

1) 地域の位置と交通網

- ・明治22年に合併した11村が、旧稲梓村の地域境および自治会境となっている。
- ・面積は59.94k m²で、下田市面積(104.38k m²)のうち約57%を占める。
- ・稲梓地域には、伊豆急行線「稲梓駅」が位置する。
- ・伊豆縦貫自動車道の(仮称)須原インターチェンジ、(仮称)下田北インターチェンジが計画されている。
- ・県道河津下田線(河津町縄地ー下田市落合)が整備中である。
- ・コミュニティバス「いなみん号」が運行している。

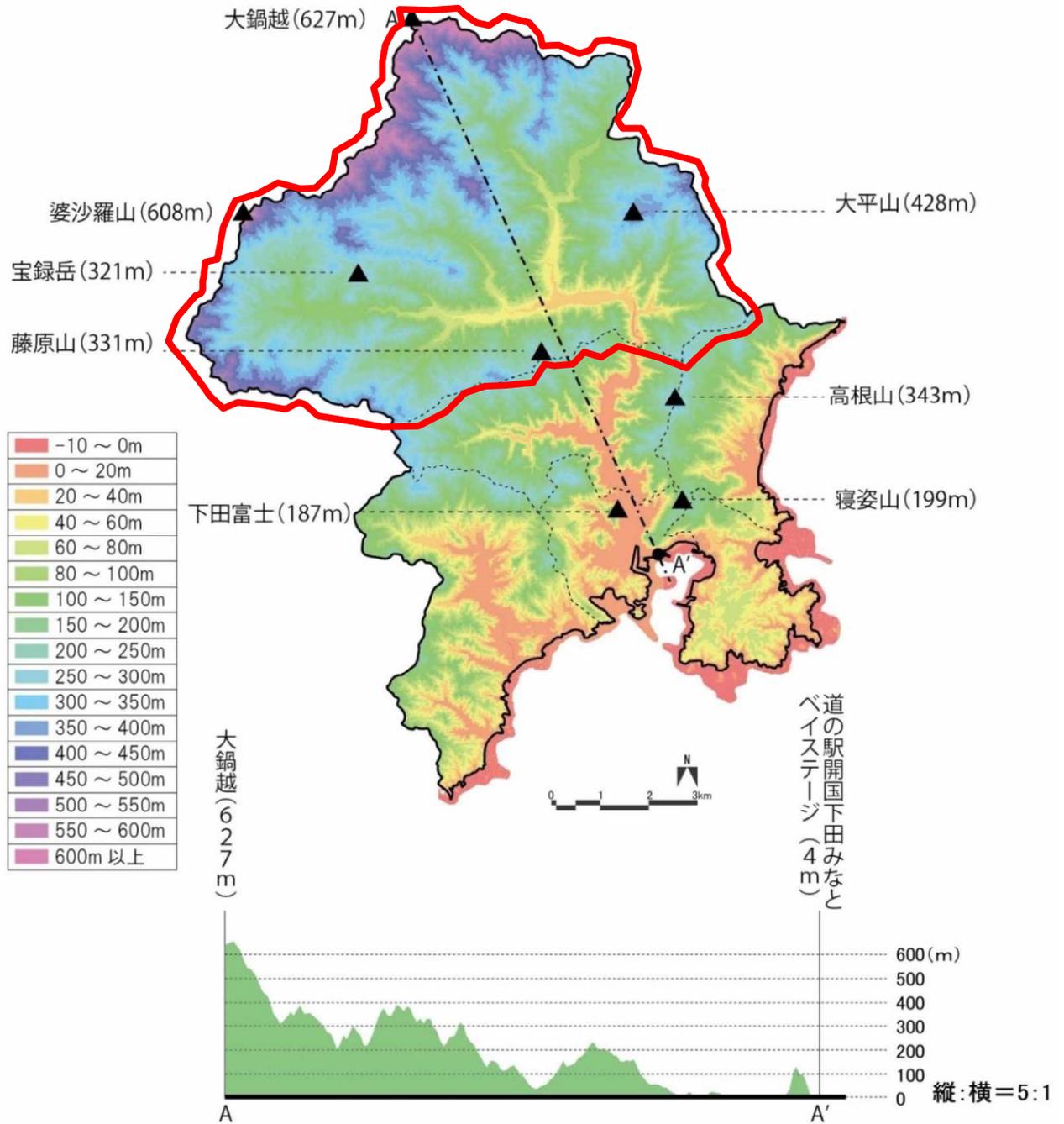


地域の位置と交通網

2) 地形

①地形

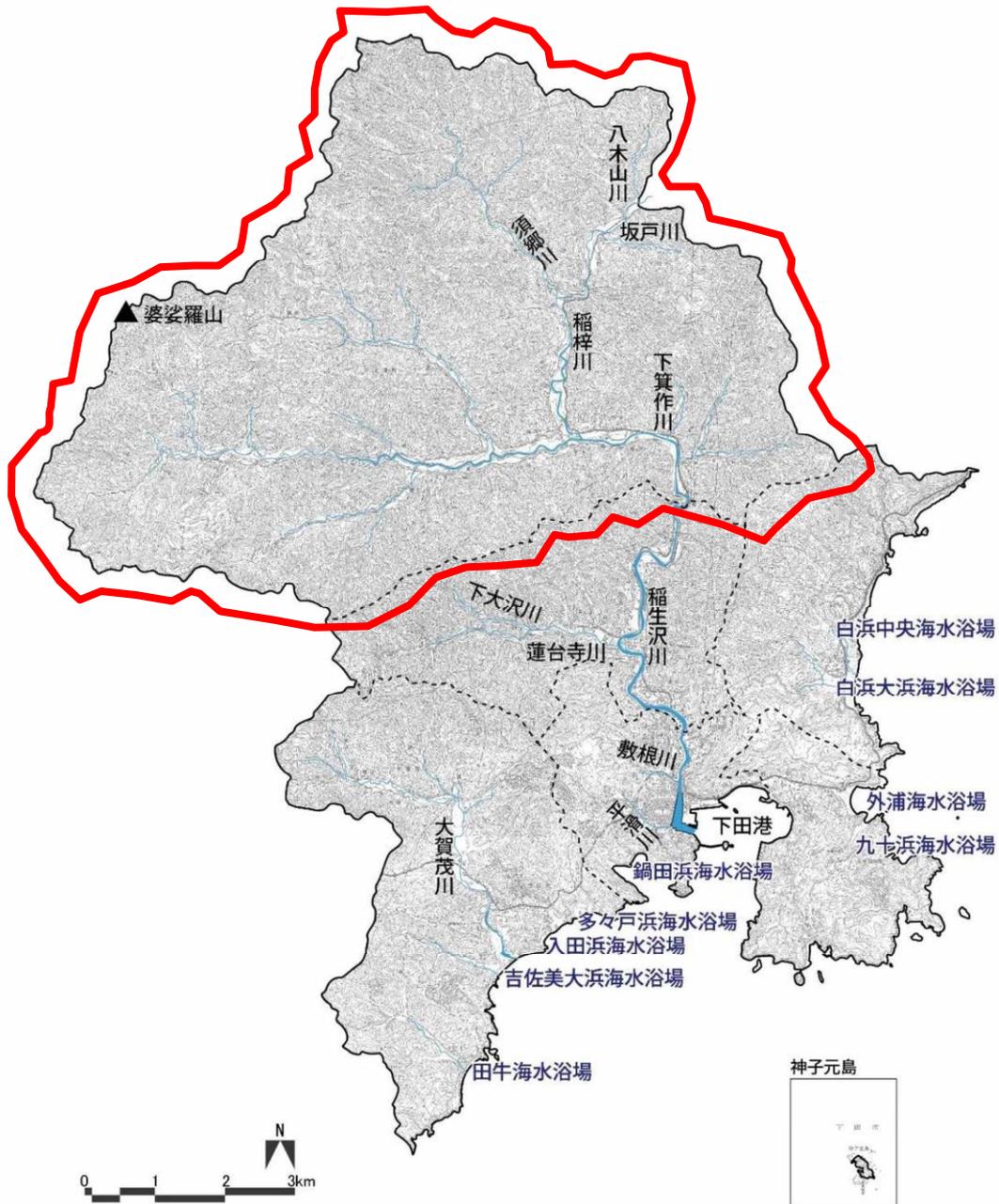
- ・ 標高は、北西部の市境が最も高く、市域の標高差は 600m以上に及ぶ。



標高図と標高断面図

②水系

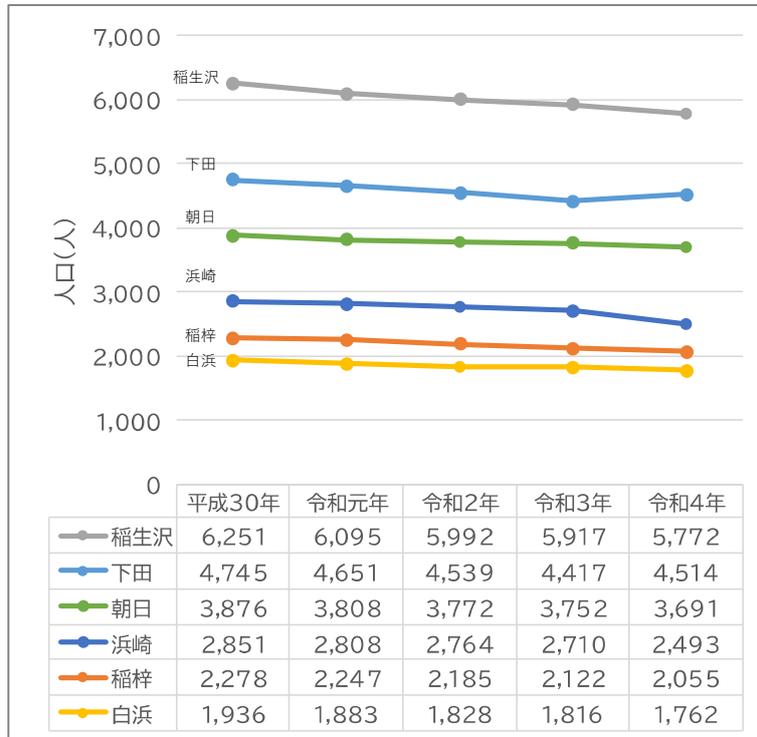
- ・稲生沢川は、下田市加増野の婆娑羅山(標高 608m) に源を発し、支川と合流しながら市域をほぼ真東に貫く。



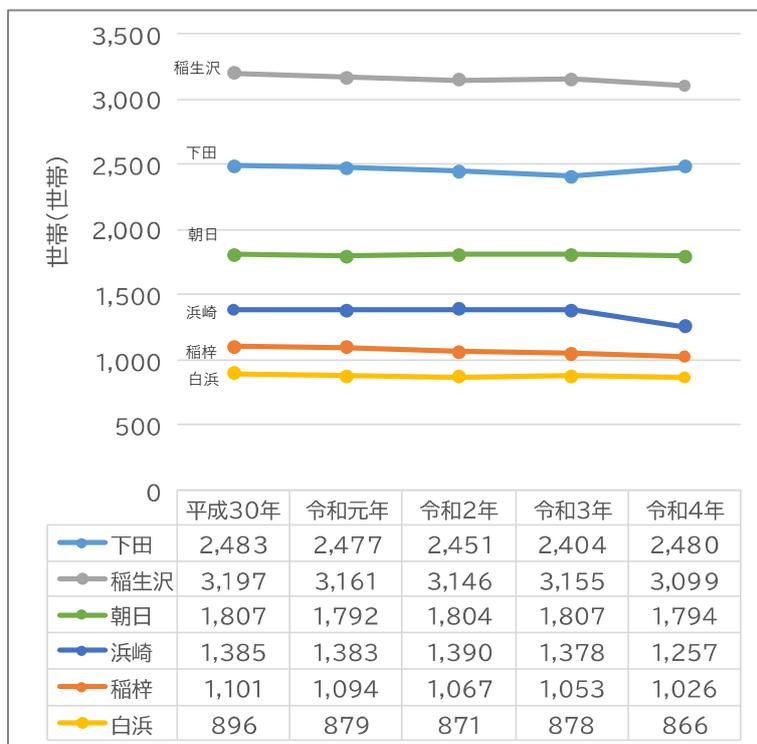
河川等位置図

3) 人口 (令和4年4月1日現在)

- ・ 稲梓地域の人口は、下田市人口の約10%を占める。
- ・ 稲梓地域は1世帯当たり2.0人/世帯 (下田市全体1.9人/世帯)



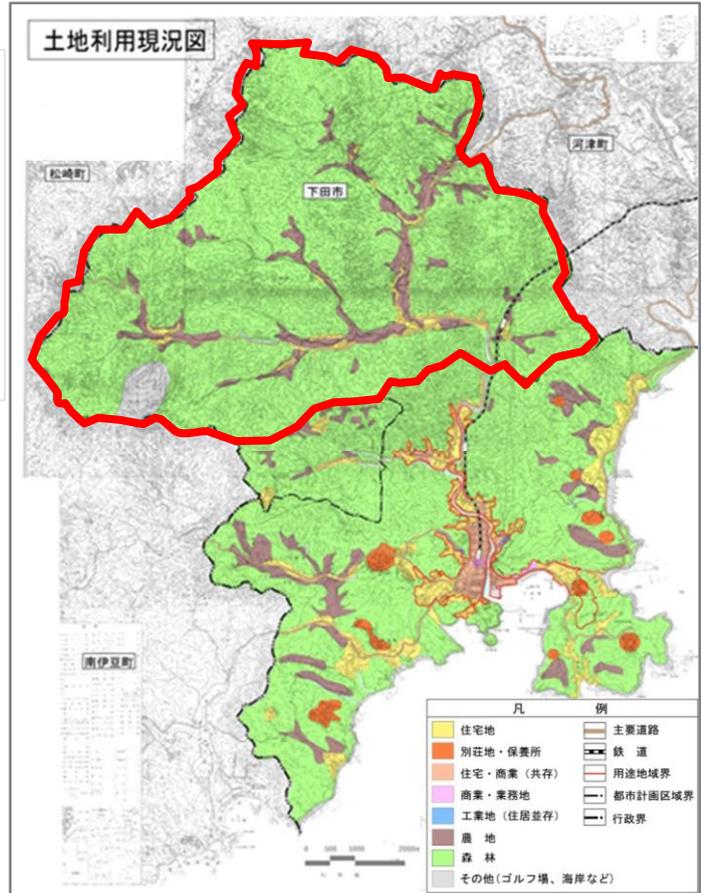
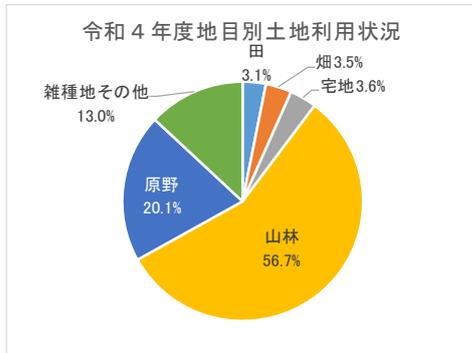
人口の推移



世帯数の推移

4) 土地利用

- 下田市の総面積の約8割を森林（山林・原野）が占めている。



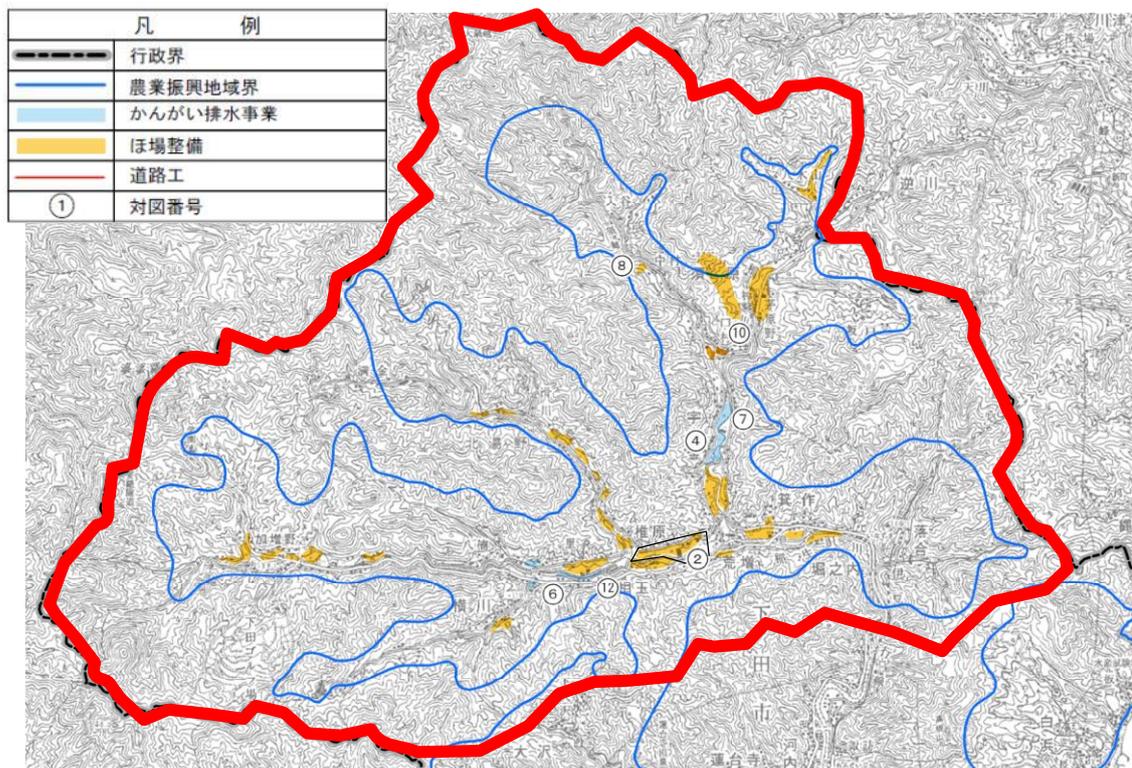
稲梓地域の風景

② 農業（基盤整備）

- ・昭和40年代から平成13年まで農業の基盤整備事業が行われている。
- ・昭和63年から平成13年の「⑫県営ほ場整備事業稲梓地区」で63.2haのほ場整備が行われている。

対図番号	事業種目	受益面積 (ha)	主要工事の名称 及び事業量	事業主体	完了年度
2	農業構造改善事業 (区画整理、椎原ほ場)	8.2	整地工 A=8.2ha 道路工 L=1,025m 用水路工 L=1,369m 排水路工 L=1,514m	下田市	S55
4	期農村振興農林漁業対策事業 (かんがい排水、宇土金用水)	6.5	用水路改良 L=310.7m	下田市	S59
6	第二期山村振興農林漁業対策事業 (かんがい排水、相玉用水)	4.5	用水路改良 L=715.2m	下田市	S60
7	第二期山村振興農林漁業対策事業 (かんがい排水、箕作用水)	2	用水路改良 L=510.5m	下田市	S61
8	第二期山村振興農林漁業対策事業 (農道整備、中村線)	2	L=335m、w=4.0m	下田市	S62
10	第二期山村振興農林漁業対策事業 (林道整備、茅原野線)	35	L=382mw=4.0m	下田市	H5
12	県営土地改良事業(県営ほ場整備 事業稲梓地区)	63.2	整地工 A=52.6ha 道路工 L=13,197m 用水路 L=16,656m 排水路工 L=8,864m	静岡県	S63~ H13

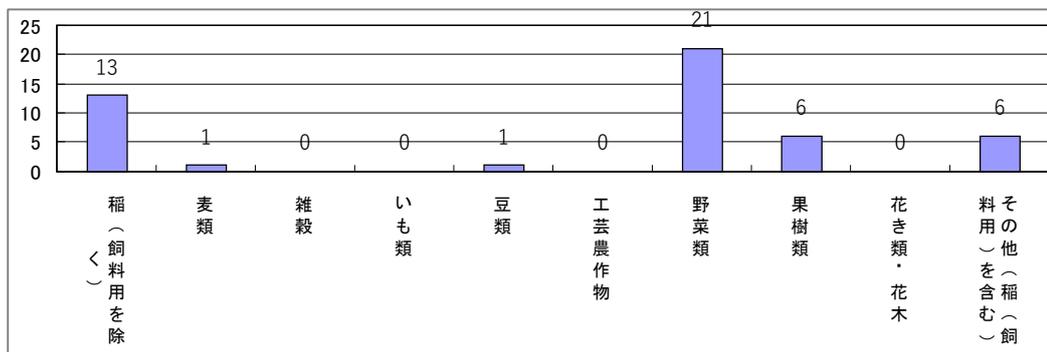
農業生産基盤整備状況図（市内）



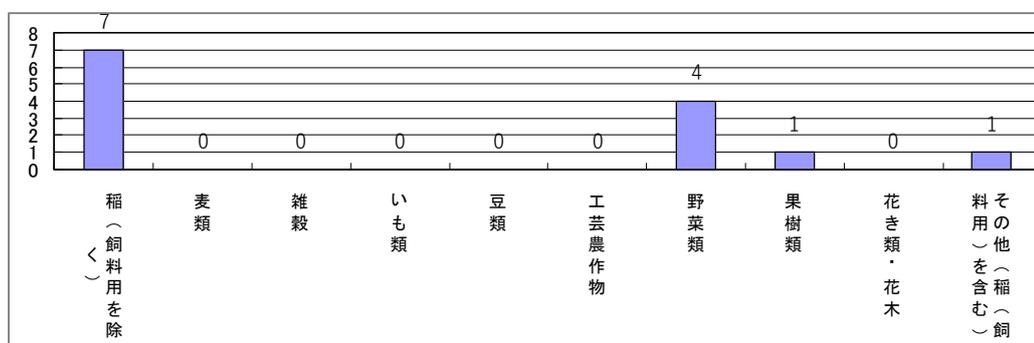
農業生産基盤整備状況図（稲梓）

③ 農業（作付する農業経営体数と作付面積）

- ・ 野菜類を作付けする経営体が最も多いが、作付面積は、稲が最も多い。



稲梓地域の販売目的の作物の類別作付（栽培）経営体数（経営体）



稲梓地域の販売目的の作物の類別作付（栽培）面積 (ha)

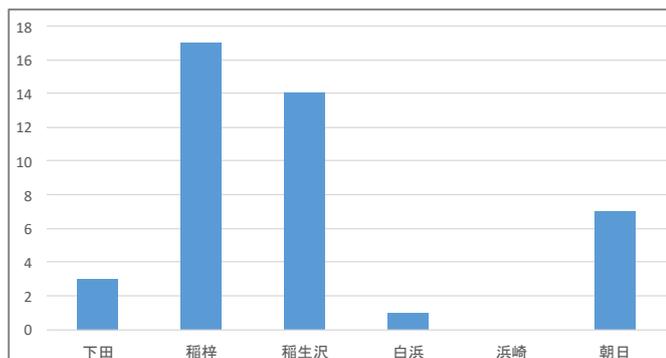
※) 農業経営体

農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭羽数が、次の規定のいずれかに該当する事業を行う者をいう。

- (1) 経営耕地面積が 30 a 以上の規模の農業
- (2) 農作物の作付面積又は栽培面積、家畜の飼養頭羽数又は出荷羽数、その他の事業の規模が定める基準以上の農業
- (3) 農作業の受託の事業

④ 温泉

- ・ 下田市内他の地域と比較して、稲梓地域は温泉源泉数が多い。



温泉利用源泉数

6) 文化

① 文化財

- ・市内には数多くの文化財が残っており、稲梓地域には12件の文化財が登録されている。

・ 県指定文化財（稲梓）

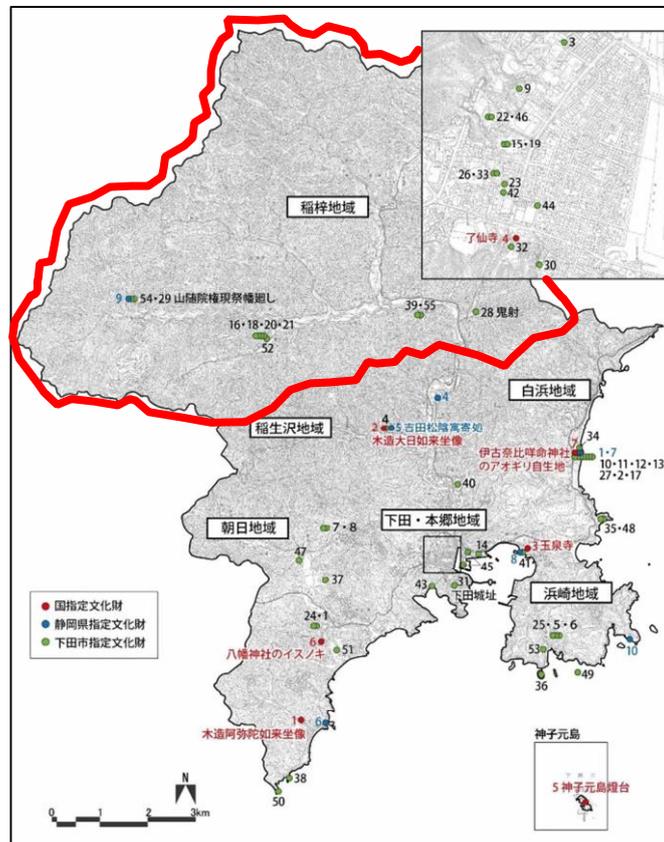
※番号は文化財位置図の番号に対応している。

	種別	名称	所有者、管理者	指定年月日	所在地
9	天然記念物	報本寺のオガタマノキ	報本寺	昭和57年11月26日	下田市加増野(報本寺)

・ 市指定文化財（稲梓）

※番号は文化財位置図の番号に対応している。

	種別	名称	所有者、管理者	指定年月日	所在地
16	古文書	北条家寺中安堵朱印状	太梅寺	昭和60年12月23日	下田市横川(太梅寺)
18	古文書	吉田泰盛寺領朱印状	太梅寺	昭和60年12月23日	下田市横川(太梅寺)
20	古文書	安国寺恵瓊奉制札	太梅寺	昭和60年12月23日	下田市横川(太梅寺)
21	古文書	寂用禅師語録	太梅寺	昭和60年12月23日	下田市横川(太梅寺)
28	無形民俗文化財 (風俗習慣)	鬼射	落合鬼射保存会	昭和51年5月27日	下田市落合(高根神社)
29	無形民俗文化財 (風俗習慣)	山随院権現祭幡廻し	加増野ハタマワシ保存会	昭和51年5月27日	下田市加増野(報本寺)
39	史跡	深根城址	私有地	昭和51年5月27日	下田市堀之内
52	天然記念物	大公孫樹	諏訪神社	昭和46年9月6日	下田市横川(諏訪神社)
54	天然記念物	枝垂れ桜	報本寺	昭和51年5月27日	下田市加増野(報本寺)
55	天然記念物	山ざくら	私有地	昭和51年5月27日	下田市堀之内
56	天然記念物	しもだまいまい	—	昭和51年5月27日	下田市内全域

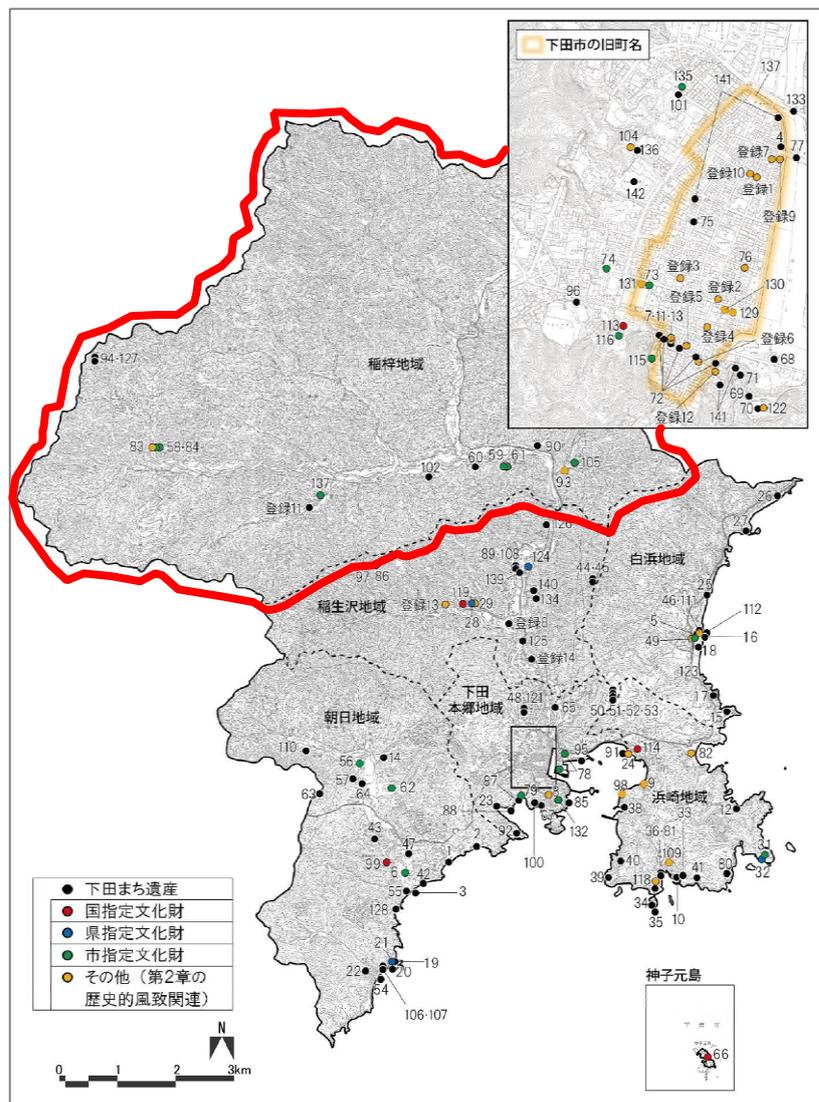


文化財位置図

② 下田まち遺産

- ・ 下田登録まち遺産は、市内で 12 件登録、うち稲梓地域は、1 件である。
- ・ 下田認定まち遺産は、市内で 153 件認定、うち稲梓地域は、17 件である。
- ・ 下田まち遺産一覧（稲梓） ※番号は下田まち遺産位置図の番号に対応している。

登録11 渡邊蔵	102 菖蒲の墓
58 報本寺枝垂桜	105 落合高根白山神社 鬼射
59 深根城址	127 娑婆羅山考子伝(伝説)
60 茶々丸の墓	137 大公孫樹
61 山桜	146 宝珠寺 山門
83 娑婆羅山 報本寺	148 わさび田の風景
84 報本寺山随院権現祭幡廻し	149 相玉のスタジイ
90 いんぼ沢とお地蔵様	150 神明神社のウラジロガン
93 稲梓の鉄橋(通称)	151 稲梓の稲作風景
94 娑婆羅山	



下田まち遺産位置図

2章 上位計画等

1) 下田市都市計画マスタープラン（平成28年3月）

■稲梓地域の将来像

「里山を活かした、“人の集い”と“人のふれあい”の稲梓」

■地域づくりの基本方針

① 土地利用と交通：定住者を増やすための基礎をつくる

＜整備方針A 良好な住環境の確保＞

- ・新たな就業環境の創造と空き家対策を図る。

＜整備方針B 地域が活性化するための土地活用＞

- ・(仮)下田北ICや(仮)須原IC周辺は、交通立地の優位性を活かし、災害時にも連携できる企業や、地域の資源を活用してくれる企業の誘致、災害時にも活用できる広場の確保を行う。(防災と地域発展のための区域)

＜整備方針C 良好な交通環境の確保＞

- ・伊豆縦貫自動車道の整備状況に併せ、幹線道路の整備を推進する。

＜整備方針D 里山と農地の保全＞

- ・山を適正に管理し、風倒木等を未然に予防する。

② 安全と都市施設：安全面の向上と暮らしたくなる機能をつくる

＜整備方針E 防災対策＞

- ・地震や風水害に負けない地域をつくる。

③ 自然, 歴史, 文化, 賑わい：地域が活気づく魅力をつくる

＜整備方針I 田舎を味わう場の提供＞

- ・地元製品の販売所は、地域交流の場、地域の台所、地元の人が作った農作物の販売所として大切にする。
- ・来訪者や市民が自由に農業を行うことができる場を提供する。

＜整備方針J 農地や里山を守る仕組みづくり＞

- ・農業を行いたい人(新規就農者)を支援する体制をつくる。



稲梓地域まちづくり方針図

2) ふじのくにフロンティア地域循環共生圏（令和5年1月）

【ふじのくにフロンティア地域循環共生圏】	
【伊東市・下田市・東伊豆町・河津町】伊豆東海岸広域地域循環共生圏	
目指す姿	豊かな自然環境の中で、いつでも誰でも安全で快適な生活を享受でき、 働き住み続けられる先進技術実証・実装都市
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域を支える新たな産業とにぎわいの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実証フィールド提供による関連産業誘致と新たな産業・技術の創出、ドローン競技大会開催等のイベント誘致を進め、先進技術実証・実装を推進する圏域のイメージ化 ○ 先進技術の導入・普及による快適でエコな生活の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主要産業や日常生活への先進技術導入による人手不足解消、サービスレベル向上 ・ ドローンによる一般物資搬送等導入による環境に優しい物流への転換、将来的な遠隔医療体制を視野に入れた医薬品搬送 ・ 次世代モビリティ導入促進による周遊性やラストワンマイル接続の向上 ○ 圏域の安全を維持する広域防災力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ ドローン等を取り入れた広域的管制システム・情報収集ネットワーク体制の構築 ・ 再エネ等活用による安定的なドローン飛行運用の検討 ・ インフラ管理補修や自然環境保全、開発行為監視への先進技術活用による圏域の災害予防力向上
コンセプト	<p>【地域資源の活用と循環】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然環境で実証され創出された先進技術を地域に実装し、得られた知見や地域ニーズ、人材をもとに新たな産業が生まれる好循環を形成 <p>《新産業エコシステムの構築》</p> <p>【循環拠点区域】</p> <p>《実証フィールド拠点》・旧稲榊中学校跡地 《防災拠点》・稲榊防災拠点</p>

3) 静岡県東部地域道路啓開基本方針（令和4年3月）

6.2 防災拠点の整備

道路啓開や救命・救援活動、その後の災害復旧において、人員、資機材を展開するため、防災拠点が重要である。東日本大震災では、道の駅やSA・PAが防災拠点として活用された。特に伊豆半島は、平野部が少なく防災拠点にふさわしい施設が限定されるとともに、道路啓開の実施においても、道路災害への緊急復旧が求められる等、新たな防災拠点の役割は大きい。このため、道の駅の防災拠点化を進めるとともに、伊豆縦貫自動車道の整備の進展にあわせ、西伊豆、東伊豆への主要な分岐点等に新たに防災拠点を整備する必要がある。



図 20 新たな防災拠点の設置位置

3章 地元ワークショップでのご意見

1) 稲梓地域まちづくり座談会（平成30年11月30日開催）

・座談会でいただいた意見やアイデア

望む将来の稲梓の姿	実現のためのアイデア	課題となりそうなこと
里山や清流を守る 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな里山にしたい。 補助金で間伐をやってもらおうと、森に光が入って山にとって良い。 箕作インターを降りたら、天然アユが清流で釣れるような場所にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> △山が荒廃している。 △河川環境が悪化している。
花が咲き誇る、蝶が飛ぶ地域に！ 	<ul style="list-style-type: none"> 河津桜よりも早咲きの桜を植えて、桜の名所にしたい。 フジバカマ（アサギマダラが好む花）は、簡単に生育できるので、地域に苗をたくさん配り、アサギマダラの聖地にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> △河川堤防上への新たな植栽はできない。 △アサギマダラの為にシカ対策が必要。
産業の活性化（雇用の場づくり） 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅などを整備し、地域の物産販売や観光案内を強化したい。 企業を誘致し、若者の働く場を作りたい。 農を活かした観光ができるとうよい。 	<ul style="list-style-type: none"> △土地利用（農地転用）等の制約がある。
歴史・文化の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 上原美術館をもっと活かすべき。 歴史・文化資源をネットワーク化すべき。 里山に歴史を絡めた「稲梓ものがたり」をつくりたい。 戦国時代の幕明けとしてのまちをアピールする。 歴史や伝統技術の体験機会を増やしたい。 	
もっと人口を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地を活用して住宅地を増やしたい。 バスの利便性を高めたい（料金や乗り継ぎの利便性など）。 中学校跡地を有効活用したい。（グランドゴルフ、スポーツ広場など） 道路を走りやすくするため、交差点等を改良したい。 	
よい風景づくり	<ul style="list-style-type: none"> 景観スポットをつくりたい。 美しい眺望を見るための駐車場があるとよい。 	

2) 稲梓地域活性化基本計画の検討に向けた住民ワークショップ

(令和5年9月20日、25日)

・ Aグループの意見交換内容

地域の特性	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 賀茂地域の中心 ・ 観光客からの印象（観音温泉など）がよい ・ 住民の構成が変わりつつある（移住の方も増えている） 	
良いところ	悪いところ
<ul style="list-style-type: none"> ◎地形や立地が良い ◎景観がよい ◎人柄が良い ◎移住者がいる 	<ul style="list-style-type: none"> △農業を活かしたいが人が減って大変 △農地転用が難しい △活用できる土地が少ない △里山の維持が困難 △生活に必要な施設が減少
<ul style="list-style-type: none"> △移住者との連携が難しい △人が減っている △人間関係が希薄に 	<ul style="list-style-type: none"> △空き家が多い △電波が悪い



地域の目指すべき姿	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てがしやすい地域 ・ 自然体験ができる地域 ・ 拠点が必要 	
整備目標	具体的な取り組み
人が住みやすく、生活を維持できるようにしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に密着した施設を設ける（生活するうえで便利な場所に） ・ 住みやすい土地づくり（法令面で住宅地が建てやすい環境に）
農業をより良く活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の集約化 ・ 単一作物をつくる ・ 新しい作物を植える ・ ニーズ分析 ・ 天候や地形を踏まえた適地の選定（農業産地化）
全体の活性化につなげるため拠点整備をしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設整備（学校、診療所、GS、公園、キャンプ場など） ・ 災害時には防災拠点（賀茂地域の防災拠点に）

・ Bグループの意見交換内容

良いところ	悪いところ
◎地名「いなずさ」の響きがよい ◎地域固有の施設(おふくろまんじゅうなど)がよい ◎温泉が出る ◎交通の便の良さが土地利用に繋がる ◎三島が通勤圏に ◎里山が活用できる ◎川が活用できる ◎入谷での取組(保育園)が良い	△土地がない △公共施設が使われていない △飲食店がない △若い人がいない △交通が円滑でない △里山の管理ができていない △有害獣がいる △農地が荒廃している △下田街道の活かし方が難しい



地域の目指すべき姿	
<ul style="list-style-type: none"> ・温泉を活かしたい ・自然の豊かさを残したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地を何とかしたい(景観を良くしたい) ・空き家を何とかしたい(景観を良くしたい)
整備目標	具体的な取り組み
観光客も地域の人も活用し、楽しめる 中心・拠点をつくりたい ※全ての施策が拠点を軸に動いていく	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉施設 ・いなずさの農作物のブランド化(販売・飲食店活用) ・農作物の加工所(わさび、漬物など) ・既存のあらゆる施設を拠点に集結 ・空き家の掲示板(空き家体験情報) ・周辺のレジャー案内 ・上原美術館を活用したツアー体験プログラム
農業で収益を上げていきたい	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物のブランド化 ・オーナー農園(種まき体験) ・セントラルホテル、千代田屋旅館、観音温泉との宿泊等の連携
空き家の活用(売りたい・貸したい・移住者に)	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家情報の掲示板設置(ホームページとリンク) ・おためし移住体験(短期利用)



ワークショップの様子

4章 課題と本計画における取組の方向性

地域の概要、上位計画等、地元ワークショップから、地域における課題と本計画における取組の方向性として、以下の点が挙げられる。

① 地域の活性化に繋がる土地利用や空き家の対策

本地域は、賀茂地域の中心に位置していて、地域間を結ぶ様々な交通手段もあるが、その位置を活かした土地利用ができていない。また、これまでは市の産業の活性化を目指して農業基盤整備事業を中心としてきた。しかし、伊豆の観光地化により、産業は第3次産業が主流となり、兼業農家が増えるとともに、人口減少や高齢化に伴い空き家が増え、家に結び付く農地の耕作放棄地化が進んでいる。立地を活かした土地利用へと見直しを行い、地域の良さを活用して、人口維持や関係人口が増加するような活性化方策が必要である。

② 暮らしに必要な都市施設の維持・改善

地域内の公共的施設や生活関連施設は年々減少していることにより、地域外への買い物や宅配サービスに頼ることとなり、快適な生活が困難となっている。さらに、地域内の各集落に居住地が点在していることから、交通網と暮らしに必要な施設が有機的に結びついて生活のネットワークがスムーズに流れるような施設配置や機能が必要である。

③ 大規模災害に備えた機能整備

本地域は、行政区が11区に分かれており、各地域で勢力的に防災対策が進められているが、他地域での災害状況を踏まえると、各地区が孤立する恐れもあり、地区単位の更なる防災対策が求められている。また、本地域は、伊豆縦貫自動車道と半島東西に伸びる主要道路が整備されることから、大規模災害時における伊豆南地域の防災拠点としての役割を果たすため、災害に備えた機能整備が必要である。

④ 生活環境保全や観光資源に繋がる里山の保全

山林は、地域の大部分を占め、稲穂の景観にとって重要となるにもかかわらず、地域人口に対して森林面積が大きいことから、地域内で里山（集落に近い山すそで、農業や林業などが行われている地域一帯）の管理が行き届かない状況である。山林を活かした企業や具体的な取り組みも少ないことから、対外的

な助言を受けながら、第1次や第3次産業に結び付く保全と活用を並行して実施できる方策が必要である。

⑤ 地域住民間や関係人口との交流の場の確保

近年、地域に魅力を感じて市外から移住してきている住民が増えてきているため、移住者との交流を望むが、その機会が少ないことから連携方法が課題となっている。地域内源泉の温泉施設や、上原美術館などほかにない施設は、広く発信していくことで、関係人口の増加に繋がり、この地域の魅力を知っている移住者との交流で、新たな地域の魅力を発見できる機会にもなる。地域住民間や関係人口と交流するきっかけや交流に結び付く仕組みづくりが必要である。

⑥ 地域の風土に合った取り組み

地域の資源を活かした温泉旅館や農産物販売所の運営など、地域がこれまで築いてきた風土を活かして経済活動が行われてきた。本計画において、地域の活性化として取り組む項目については、地域の風土に合ったものや、新たなルール作りにより、地域に適合して地域住民に受け入れられるよう努めていくことが必要である。

5章 活性化方針

地域の課題と取組の方向性より、活性化テーマ、地域の活性化方針を次のとおり設定する。

1) 活性化テーマ

新しい道 豊かな里山 花と農の稲梓

稲梓地域は、11村単位で各集落の独自の文化を築いてきた中、下田市政となり、ヤマの集落として稲作をはじめとする農業を活性化すべく、長年にわたり、農業基盤整備事業、農地の面的整備、核となる施設として、加増野ポーレポーレ、あずさ山の家及び基幹集落センターの整備を行ってきた。

全国的にみる人口減少、高齢化とともに、地域の農地や里山管理は、今後のさらなる人口減少を考えると、各集落、地域内での解決は難しい状況である。これまでの独自の文化の中で築いてきた資源や産業を活かすだけでなく、現在の状況を改善する起爆剤として、整備中である伊豆縦貫自動車道による新たな人流を活かしていく必要がある。

今後は、地域の魅力である温泉、里山風景、地場産品などで来訪者を迎える“おもてなし”に加えて、山（森林、里山風景等）、水（稲生沢川、稲梓川等）、光（夜空の星やホテルの光等）、温泉や、そこから根付いた文化などの豊かな里山資源を新たな手段・方法（道）で発信したり、伊豆縦貫自動車道による効果とかけ合わせたりすることで地域活性化を進めていく。例えば、自然体験による交流を通して地域の人と観光客の双方が活力を得る、農業をかけ合わせて新たな生活環境の創出

（エコヴィレッジ）を図ることで里山の恩恵を活かす、宿泊施設と温泉を活用した健康プログラムや、花木で彩られた道づくりにより観光客に安らぎを与える。また災害時には、地域のみならず、市内、賀茂地域も支援できる防災拠点を形成することで安心を与える。さらに、取り組みについては、地域が培ってきた風土に合わせることで、新しい取り組みについてはルールを設けて地域になじむように努めつつ、行政や地域住民だけでなく、市内外の大学やNPOの協力を得ながら、豊かな里山風景、暮らし、活動を通じて住民が暮らしやすく、かつ、来訪者が楽しむことのできる、花木に彩られた花木の里稲梓を目指していく。

2) 活性化方針

活性化方針1：新たな道と拠点づくり**<関係人口、広域交通、防災機能を意識した拠点づくり>**

交通が集中する(仮称)下田北インターチェンジ周辺を中心に、骨格となる道路を位置づけ、市内外や地域内を結び、地域住民、来訪者等の関係人口が集まり、地域の核となる拠点を形成する。

【活性化プロジェクト】

拠点整備プロジェクト、施設活用プロジェクト、基盤整備促進プロジェクト

活性化方針2：里山を楽しもう**<里山環境を基盤とした生活と観光が調和した地域づくり>**

地域を取り囲む山々や河川、歴史・文化資源と、集落環境との共生を図りながら、里山風景や他の地域にない資源を観光面に活かしていく。

【活性化プロジェクト】

花木の里プロジェクト、心と体の健康創出・風土体験プロジェクト、里山の暮らし満喫プロジェクト

活性化方針3：地域経済の発展**<地域資源を活かした産業づくり>**

地域固有の産業を次世代へ引き継ぐために、新たな事業展開を図る。

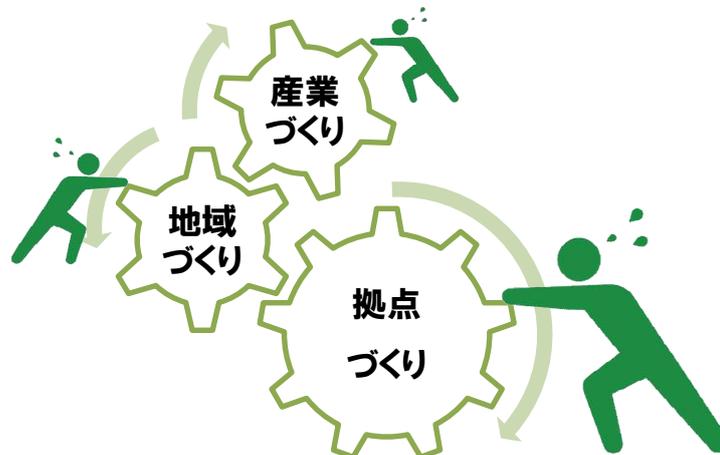
【活性化プロジェクト】

農業・林業振興プロジェクト、観光産業振興プロジェクト

■拠点づくりが、地域づくりと産業づくりの軸となる。

■地域づくりが進まなければ、拠点づくりも産業づくりも動かない。

■各歯車(方針)を動かす人々が重要



活性化方針の構成

6章 活性化プロジェクト

活性化方針に基づき、課題を解決するためのプロジェクトを設定する。

1) 活性化プロジェクト

① 新たな道と拠点づくり

プロジェクト1【拠点整備プロジェクト】

(仮称)下田北インターチェンジ周辺で、地域住民と観光客を始めとする来訪者の交流拠点を整備すると共に、災害時には、伊豆半島南部地域の防災拠点として広域支援・広域受援の場として整備する。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 交流拠点づくり</p> <p>地域で暮らす人と観光客を始めとする来訪者が、地域の活動や産業等の資源を通じて集い、触れ合う場所とする。</p>  <p>出典) 道の駅なみえ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅などを整備し、地域の物産販売や観光案内を強化 ・体験学習に活用する。 ・農作物の加工所（わさび、漬物など） ・ペットと散歩できる公園 ・体育館（運動会やスポーツができる） ・温泉施設 ・天然アユが清流で釣れるような場所
<p>(2) 防災支援拠点づくり</p> <p>賀茂地域を支える防災支援拠点として、自衛隊等の救急救命部隊前進基地、緊急物資等の基地、復旧復興活動基地などの利用ができるよう、平時の利用と兼ね合わせて機能を備えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災上必要なスペースの確保 ・ヘリポート発着所 ・防災には大小の駐車場が必要 ・防災センター機能 ・災害時用ドローン基地
<p>(3) 生活支援拠点づくり</p> <p>稲梓地域の生活を支える拠点として、日用品を購入できる施設や公的施設の導入、コミュニティバス「いなみん号」を始めとする公共交通の発着場所をおく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物ができる場所 ・既存のあらゆる施設を拠点に集結させる（診療所、郵便局、駐在所、基幹集落センター（ダンスができる）） ・ATM、ガソリンスタンド ・いなみん号の拠点（バスの利便性を高めたい）
<p>(4) 情報発信拠点づくり</p> <p>伊豆南地域の玄関口として、伊豆の東西南北に関する交通情報、観光情報等を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺のレジャーや道路情報案内 ・空き家の掲示板（空き家体験情報） ・稲梓の宿泊業との連携 ・サイクリング拠点

(関係者) 行政（国、県、市）、地域住民、専門家（防災等）

プロジェクト2【施設活用プロジェクト】

既存施設や空き家などを活用し、各プロジェクトとの連携を図る。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 既存施設（公共・民間）、空き家の活用</p> <p>空き家情報を発信するとともに、プロジェクトと連携して、研修用の教育施設、サテライトオフィス、移住者用の住宅などに活用する。</p>  <p>出典) 富士見 森のオフィス(テレワーク・宿泊)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あずさ山の家は、学校跡地の施設として、教育施設やセミナーハウスとして利用する。 ・空き家情報の掲示板設置（ホームページとリンク） ・おためし移住体験（短期利用） ・ワーケーション、サテライトオフィス ・移住者誘致 ・2拠点居住の推進 ・ウォーキング等の活動拠点の整備 ・住宅が建てやすい環境に（法令面）

（関係者）行政（施設管理者）、下田市空き家バンク、民間事業者

プロジェクト3【基盤整備促進プロジェクト】

伊豆縦貫自動車道や、インターチェンジから市内外や地域内とを結ぶ道路（県道河津下田線など）の、地域の基盤となる施設の整備促進を図る。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 基盤整備の促進</p> <p>地域の活性化に結びつく、伊豆縦貫自動車道やアクセス道路などの道路ネットワーク整備促進を図る。</p> <p>河津下田道路(Ⅱ期)</p>  <p>出典) 河津下田道路パンフレット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆縦貫自動車道の整備効果の発現 ・整備促進活動

（関係者）行政（施設管理者）、民間企業、地域住民

② 里山を楽しもう

プロジェクト1【花木の里プロジェクト】

国道414号、県道下田松崎線、県道河津下田線等の道路沿道からの景観や、里山景観を良くする等、市民や来訪者が季節を実感できる空間づくりをする。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 里山景観と花木の整備</p> <p>国道や県道の、道路沿道からの景観を楽しめるよう、森林の維持管理や花木の植栽等により、良好な景観を形成する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・花木の方が管理が楽 ・花のある里山は観光客が喜ぶ ・クリスマスローズはシカが食べない ・河津桜よりも早咲きの桜を植えて、桜の名所に。 ・フジバカマ（アサギマダラが好む花）は、簡単に生育できるので、地域に苗をたくさん配り、アサギマダラの聖地に。 ・景観スポットをつくりたい。 ・多面的機能支払い交付金[資源向上活動（共同）]の活用 ・美しい眺望を見るための駐車場があるとよい。 ・森林整備の体制構築 ・農作業体験会、講習会 ・車窓から眺めてもらうならば、カーブのところが目に留まりやすい。
<p>（関係者）行政（市・県）、里山管理者、農業者</p>	

<プロジェクトイメージ:花木の里(幹線道路沿線活性化プロジェクト)>

【検討想定項目】

1. 花木の里イメージの構築
 - ・沿線全体での見せ方
 - ・開花時期
 - ・周辺景観との調和
2. その他必要なこと
 - ・協力体制の構築
 - ・沿道のPR



花木の整備（(仮称)箕作広場）

プロジェクト2【心と体の健康創出・風土体験プロジェクト】

静岡県が主催する^{いこい}ICOIプロジェクトと連携し、地域資源（山、川、食文化、暮らし、歴史文化など）との連携による体験メニューをつくり、人々の心と体が満足するプログラムとする。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 温泉健康増進プログラム</p> <p>温泉宿泊施設を核として、里山ウォーキングやサイクリング、食、祭り文化と組み合わせることで、健康増進に繋げるとともに、地域の魅力発信媒体としても使用できるプログラムを構築する。</p>  <p>出典) 上山型温泉クワオルト構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング ・サイクリング ・体験プログラム、コース設定 ・お寺等の催し物（色々な体験メニューあり）との連携 ・鬼射（落合）、山隋権現（加増野）等の祭りの体験
<p>(2) 歴史文化体験プログラム</p> <p>美術館・博物館、歴史文化資源を活用した歴史文化体験プログラムを作成し、市内外の子どもたちや学生、芸術家に向けたワークショップ、ツアー等を企画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上原美術館を活用した体験プログラム ・歴史文化資源のネットワーク化 ・歴史、魅力マップ作成 ・芸術家作品の発表イベント ・戦国時代の幕明けのまちをアピール ・歴史や伝統技術の体験機会を増やす。
<p>(3) 自然体験プログラム</p> <p>里山、河川、田畑を利用した自然体験プログラム（クワガタ採り、シイタケ狩り、ホタル観賞など）により、地元の人には地域の良さを改めて知る機会とするとともに、プログラムの先生となり、観光客へ地域の魅力を伝える機会とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の豊かさを残したい。 ・自然を活用したレジャー（河川・山） ・環境整備をして河川や山で遊べるようにしたい。 ・ホタル鑑賞（須原入谷ライン） ・蕨取り、クワガタ採り、シイタケ狩り ・養蜂場、果樹園、あゆなど、いいところが多い。 ・技術を持つ地域の人が多いため、講師として活躍してほしい。
<p>（関係者）民間施設管理者（温泉施設、美術館、博物館、里山管理者等）、行政施設管理者（河川管理者等）</p>	

〈ICOI プロジェクトとは〉伊豆半島の温泉を核とし、ジオパークに代表される自然・歴史・文化・食などの地域資源やスポーツ科学などの知見を組み合わせ、官民が一体となって伊豆地域に適したヘルスケアサービス等を創出することで、地域の活性化と産業の振興を図る取組で、事業支援制度がある。

プロジェクト3【里山の暮らし満喫プロジェクト】

地域の風土に合った今の暮らしを維持しながら、住民が互いに支えあい、地産地消などの環境に配慮した暮らし（エコヴィレッジ）を発信する。また、災害時においては、地域の各集落が孤立した際に生活が維持できるよう、各地域の災害時対応を進める。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 里山暮らしの発信</p> <p>暮らしの中に農業を取り入れて、食と健康を自ら守る等、暮らしと地域の産業が結びついたライフスタイル、里山に根付いた暮らしの発信を行う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで地域の人が培ってきた農業のノウハウや持っている技術を活かす場所があるとよい。 ・ジビエの活用検討 ・里山暮らし体験会 ・地域のルールづくり
<p>(2) 集落単位の防災対策</p> <p>災害時における孤立集落を想定し、集落単位で防災対策を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集落単位でのヘリポート発着所の確保 ・情報収集と物資輸送のためのドローン活用 ・避難場所と連携した個人の備蓄倉庫
<p>（関係者）地域住民、行政（市・県）</p>	

<プロジェクトイメージ:温泉健康増進プログラム>

【検討想定項目】

1. プログラム作成

- ・温泉旅館を出発
- ・里山ウォーキング
- ・完走記念に温泉で一休み

2. その他必要なこと

- ・協力体制の構築
- ・プログラム PR



里山ウォーキング&温泉堪能

③ 地域経済の発展

プロジェクト1【農業・林業振興プロジェクト】

農作物の栽培拡大など第1次産業として収益化が図れるようにするとともに、農林業資源を活かした新たな事業への展開を図る。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 農地の効率的な活用及び新たな担い手の誘導</p> <p>効率的な農作業ができるよう、農地の再構築や集約化を図るとともに、新たな担い手を育てる仕組みをつくり、地域でとれる野菜（わさび、みかん、など）の農産物を維持する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の再構築・集約化 ・地域おこし協力隊の協力 ・大学等との連携 ・静岡県との協力体制の構築 ・農業研修の実施 ・オーナー農園（種まき体験） ・アグリツーリズムの導入 ・地区内の旅館との宿泊等の連携
<p>(2) 市場性のある農作物の調査</p> <p>気候や風土、消費者のニーズ調査に基づきながら、収益に繋がる農作物の研究を行う。</p> <p>(3) 農作物の販売・流通ルートの構築</p> <p>農作物の育成とともに、販売・流通ルートの確保を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単一作物をつくる ・市場分析 ・天候や地形を踏まえた品種の選定 ・農作物のブランド化 ・新しい農業（クラフトビール、ワイナリー、ブルーベリーなど） ・農業産地化 ・農作物販売所の整備
<p>(4) 森林の維持管理</p> <p>地域の地盤を維持するため、森林の維持管理を継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下刈り、除伐、間伐（時間はかかるが、が海的环境保全に繋がるため、継続的な取り組みが必要）
<p>(5) 地場産木材のサイクルを構築</p> <p>間伐した地場産木材は、拠点における薪として利用するなど、様々なプロジェクトで活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木工製品開発 ・道の駅で薪をつくり、燃料にして暖をとれるとよい。
<p>（関係者）農業従事者、関係団体（農協、森林組合、観光事業者）</p>	

プロジェクト2【観光産業振興プロジェクト】

心と体の健康創出・風土体験プロジェクトや、農業・林業振興プロジェクトとの連携により、地域の温泉旅館を核とした新たな宿泊スタイルを発信していく。

事業項目	取組アイデア（地元ワークショップ等）
<p>(1) 新たな宿泊スタイルの発信</p> <p>農業をはじめとする体験プログラムと一帯となったゲストハウスなど新たな宿泊スタイルを発信する。</p>  <p>出典) ゲストハウス蔵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉旅館の情報発信 ・ゲストハウスの運営 ・体験プロジェクトとの連携
<p>(2) 観光客の災害対応</p> <p>観光客が帰宅困難者となった際の誘導方法の検討と受入先を確保する。</p> <p>(関係者) 関係団体（旅館経営者）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者は、宿泊先で対応できるが、日帰り客に対する災害時対応の検討が必要

2) 活性化プロジェクトマップ

① 新たな道と拠点づくり		② 里山を楽しもう		③ 地域経済の発展	
拠点整備プロジェクトエリア	施設活用プロジェクト	花木の里プロジェクトエリア	心と体の健康創出・風土体験プロジェクト	農業振興プロジェクトエリア(メイン・サブ)	林業振興プロジェクトエリア
骨格道路	公共施設	花拠点(計画中・構想)	里山の暮らし満喫プロジェクトエリア	観光産業振興プロジェクトエリア	
骨格道路(整備中)			観光・歴史・文化施設		

新しい道 豊かな里山 花と農の稲穂

【心と体の健康創出・風土体験プロジェクト】
 温泉健康増進プログラム、歴史・文化体験プログラム、自然体験プログラム

【観光産業振興プロジェクト】
 新たな宿泊スタイルの発信、観光客の災害対応



【施設活用プロジェクト】
 既存施設(公共・民間)、空き家の活用

【里山の暮らし満喫プロジェクト】
 里山暮らしの発信、集落単位の防災対策

【花木の里プロジェクト】
 里山景観と花木の整備

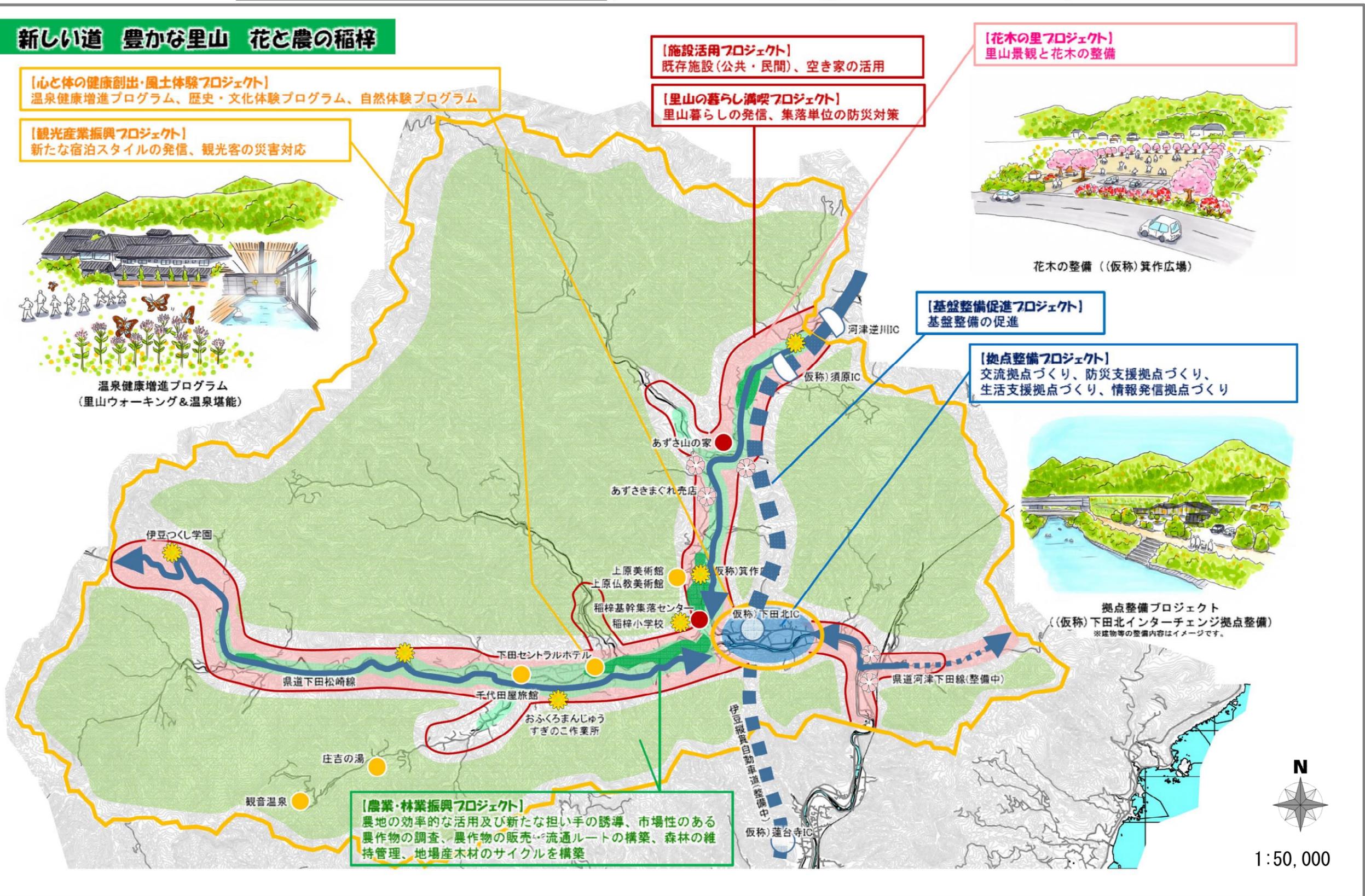


【基盤整備促進プロジェクト】
 基盤整備の促進

【拠点整備プロジェクト】
 交流拠点づくり、防災支援拠点づくり、生活支援拠点づくり、情報発信拠点づくり



【農業・林業振興プロジェクト】
 農地の効率的な活用及び新たな担い手の誘導、市場性のある農作物の調査、農作物の販売・流通ルートの構築、森林の維持管理、地場産木材のサイクルを構築



1:50,000

7章 実施スケジュールと実施体制

1) 実施スケジュール

以下の視点に基づいて、実施スケジュールを設定する。

<スケジュール設定基準>

- ①伊豆縦貫自動車道の(仮称)下田北インターチェンジ供用開始と合わせて効果を発揮すべきプロジェクトは、完了を「短期」として設定する。
- ②主に伊豆縦貫自動車道の(仮称)下田北インターチェンジ供用開始後の来訪者に対して実施するプロジェクトは、完了を「中期」として設定する。
- ③完成までに長期間かかるプロジェクトは、二期間とする。
- ④維持管理に関することで、継続していくべきプロジェクトは、三期間とする。

＜実施スケジュール＞

	活性化 プロジェクト	短期(約5年後) (2024-2028)	中期(約10年後) (2029-2033)	長期(約20年後) (2034-2038)
①新たな道と拠点づくり				
1【拠点整備プロジェクト】				
①-1-(1) 交流拠点づくり				
①-1-(2) 防災支援拠点づくり				
①-1-(3) 生活支援拠点づくり				
①-1-(4) 情報発信拠点づくり				
2【施設活用プロジェクト】				
①-2-(1) 既存施設(公共・民間)、 空き家の活用				
3【基盤整備促進プロジェクト】				
①-3-(1) 基盤整備の促進				
②里山を楽しもう				
1【花木の里プロジェクト】				
②-1-(1) 里山景観と花木の整備				
2【心と体の健康創出・風土体験プロジェクト】				
②-2-(1) 温泉健康増進プログラム				
②-2-(2) 歴史文化体験プログラム				
②-2-(3) 自然体験プログラム				

活性化 プロジェクト	短期(約5年後) (2024-2028)	中期(約10年後) (2029-2033)	長期(約20年後) (2034-2038)
3【里山の暮らし満喫プロジェクト】			
②-3-(1) 里山暮らしの発信			
②-3-(2) 集落単位の防災対策			
③地域経済の発展			
1【農業・林業振興プロジェクト】			
③-1-(1) 農地の効率的な活用及び 新たな担い手の誘導			
③-1-(2) 市場性のある農作物の調査			
③-1-(3) 農作物の販売・流通ルート の構築			
③-1-(4) 森林の維持管理			
③-1-(5) 地場産木材のサイクルを 構築			
2【観光産業振興プロジェクト】			
③-2-(1) 新たな宿泊スタイルの発信			
③-2-(2) 観光客の災害対応			

2) 実施体制

活性化プロジェクトは、多くの時間、費用、人的労力のみならず、これまでの現状を改善していくためには、アイデアや最新技術等の助言も必要となる。そのため、プロジェクトの実施には、これまでの行政と地域住民だけではなく、市内外の教育機関、研究機関、NPOなどの専門的知見や能力を活かしながら進めていく。

また、地域人材として、地域おこし協力隊、集落支援員等、新たな地域の担い手を配置、地域の実施体制を強化する。

プロジェクトの実施や基本計画の進捗管理にあたっては、地域内外のまちづくり関係者の参画を得た「(仮称)稲梓地域まちづくり協議会」を設立し、推進することが望ましい。また、これに対応し、庁内に「(仮称)稲梓地域活性化推進本部」を設立し、進捗のための調整、評価・管理を行う。

<短期成果を挙げるプロジェクトの実施体制>

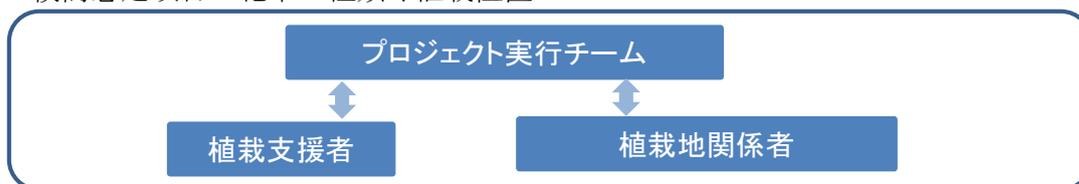
【拠点整備プロジェクト】

検討想定項目：必要設備、必要規模、周辺施設との連携



【花木の里プロジェクト】

検討想定項目：花木の種類や植栽位置



【心と体の温泉健康創出・風土体験プロジェクト】健康増進プログラム

検討想定項目：プログラム作成、プログラムの実施



【農業・林業振興プロジェクト】農地の効率的な活用及び新たな担い手の誘導

検討想定項目：新たな農業者の誘導、事業個所の検討、農作物調査



【参考資料】

【計画策定の経緯】

ア 稲梓地域活性化基本計画の検討に向けた住民ワークショップ

開催日	主な検討内容
第1回ワークショップ 令和5年9月20日（水）	<ul style="list-style-type: none">・ 本地域の特性・ 本地区の売り（よいところ）・ 本地区の課題（問題点、わるいところ）
第2回ワークショップ 令和5年9月25日（月）	<ul style="list-style-type: none">・ 目指すべき姿・ 本地域の整備目標の検討・ 具体的な取組と役割分担・ 取組方策

イ 稲梓地域活性化基本計画検討委員会

開催日	主な検討内容
第1回検討委員会 令和6年1月12日（金）	<ul style="list-style-type: none">・ 稲梓地域活性化基本計画について説明・ 稲梓地域の現状と課題について・ 稲梓地域の課題解決に向けた視点について
第2回検討委員会 令和6年2月9日（金）	<ul style="list-style-type: none">・ 稲梓地域活性化基本計画（案）について
第3回検討委員会 令和6年2月9日（金）	<ul style="list-style-type: none">・ 稲梓地域活性化基本計画（案）について

【計画策定体制】

ア 地元ワークショップ参加組織

<p>稲梓区長会 会長（横川区長）、稲梓区長会 北湯ヶ野区長、稲梓区長会 箕作区長、元稲梓区長会 元須原1区長、稲梓小学校PTA会長・副会長、美しい里山づくりプロジェクト推進委員会 委員長・委員、下田市農業委員会 委員、下田市文化財保護審議会 副会長、下田市まちづくり懇話会 委員、静岡県賀茂地域局 次長兼地域課長、静岡県賀茂地域局 参事兼危機管理課長、下田温泉旅館組合</p>

イ 稲梓地域活性化基本計画検討委員会 委員

	区分	所 属	役職等	氏名
1	1号(有識者)	下田市都市計画審議会	会長	伊藤 光造
2	1号(有識者)	下田市都市計画審議会	副会長	安藤 泰
3	2号(地域団体)	下田市美しい里山づくりプロジェクト推進委員会	委員長	井出 秀成
4	2号(地域団体)	花木の里プロジェクト（下田商工会議所）	会長（会頭）	田中 豊
5	2号(地域団体)	下田市農業委員会	委員	土屋 郁雄
6	2号(地域団体)	下田温泉旅館組合（清流荘）	（支配人）	土屋 英典
7	3号(市民)	稲梓地区区長会	横川区長（会長）	山崎 和也
8	3号(市民)	稲梓地区区長会	北湯ヶ野区長	土屋 哲郎
9	3号(市民)	稲梓地区区長会	箕作区長	小林 弘和
10	3号(市民)	地域住民(横川 伊豆下田かえる堂)		末吉 香乃枝
11	3号(市民)	元下田市総合計画審議会委員		土屋 尊司
12	4号(関係行政)	賀茂地域局地域課	班長	西ヶ谷 一男
13	5号(市職員)	下田市建設課	課長	平井 孝一
14	5号(市職員)	下田市防災安全課	課長	土屋 武義
15	5号(市職員)	下田市産業振興課	課長	糸賀 浩

オブザーバー	賀茂農林事務所 企画経営課	課長	大城 美由紀
オブザーバー	下田土木事務所 企画検査課	課長代理	大岡 朗

事務局	下田市企画課	課長	鈴木 浩之
事務局	下田市企画課政策推進係	係長	金守 俊彦
事務局	下田市企画課政策推進係	主事	鈴木 翼
事務局	下田市産業振興課 農林係	課長補佐兼係長	進士 高広
事務局	下田市防災安全課 防災係	係長	長田 朋大
事務局	下田市建設課 伊豆縦貫道係	係長	鈴木 慈美

令和6年3月29日

下田市長 松木 正一郎 様

稲梓地域活性化基本計画検討委員会

委員長 伊藤 光造

「稲梓地域活性化基本計画」の作成について

稲梓地域活性化基本計画検討委員会は、人口減少、少子高齢化等の進行、自然環境の荒廃、農林業の衰退等の社会環境の変化で地域活力の低下が進む一方、伊豆縦貫自動車道の一部開通、公共施設の再整備等により、新たな時代の変化が見込まれる稲梓地域の目指すべき将来像を基本計画として明らかにする役割を担っております。

令和5年9月において開催された地元ワークショップや、これまでの地域のご意見等を参考としながら、本地域の活性化方針や活性化プロジェクトの設定、伊豆縦貫自動車道の(仮称)須原インターチェンジや(仮称)下田北インターチェンジの開通を見据えた実施スケジュールや実施体制の検討を進めてきました。今回、本計画がまとまりましたので報告いたします。

(1) 「稲梓地域活性化基本計画」について

<添付資料>

- ・「稲梓地域活性化基本計画」本編

<付帯意見>

速やかな計画推進をお願いします。

以上

《Aグループ》 稲梓地域の「売り(良いところ)」と「課題(問題点・悪いところ)」

特性
(現在の様子)

- ・ 賀茂地域の中心
- ・ 観光客からの印象(観音温泉など)がよい
- ・ 住民の構成が変わりつつある(移住の方も増えている)

農業

- ・ 基本的には兼業農家
- ・ 遊休農地が増えている

交通

- ・ 交通の結節点
- ・ 伊豆縦貫道による通勤圏の拡大

「売り」(良いところ)

地形や立地が良い

- ・ 地理的に賀茂地域の中心なので通勤上よい(学校の先生など)
- ・ 静かに暮らせる
- ・ 防災上の地形がよく、防災拠点になりうる(安全)

景観が良い

- ・ 農業景観の美しさ
- ・ 山桜が良い
- ・ 里山景観の美しさ

人柄が良い

- ・ 地域に住んでいる人が地域好き
- ・ 地域活動への協力関係が作れる
- ・ いなずさ診療所の先生の評判が良い

移住者がいる

- ・ 移住者が多い
- ・ 移住で来る人がいる(自然が魅力)

生活に必要な施設が減少

- ・ 生活拠点がなくなっている
- ・ 施設(農協や学校)が他の地域に出て行ってしまっている
- ・ 市街地(下田・本郷)に施設が集まりすぎている
- ・ 生活の基盤が必要

空き家が多い

- ・ 空き家が多くて人が少ない
- ・ 家を建てるうえで田畑は制限がある

電波が悪い

- ・ 電波インフラが悪い
- ・ 通信インフラの整備が急務

課題(問題点・悪いところ)

農業を活かしたいが...

- ・ 人が減って農業するのが大変になりつつある
- ・ 農業を活かしたい
- ・ 効率的に行う必要がある(農地の集約化)
- ・ 作物、農業としての特色がない
- ・ 気軽に農業に取り組める環境整備を

農地転用が難しい

- ・ 農地の規制が厳しすぎる(青地)
- ・ 日当たりの良いところは全て農地となっている(住宅地は日当たりが悪い)

活用できる土地が少ない

- ・ 山間地(須原)土地が狭小
- ・ 宅地が少ない

里山の維持が困難

- ・ 里山整備の人やお金が足りない
- ・ 自然災害防止にも森林管理が必要
- ・ 奥山の荒廃
- ・ 手入れが追いつかない人工林の扱い
- ・ 急傾斜地が多い

移住者との連携が難しい

- ・ 外からの人を排除する気質もある
- ・ 新戸との意識の差がある(従来のコミュニティから変わりつつある)

人が減っている

- ・ 高齢化で、何か続けるとなると人が集まらなくなりつつある

人間関係が希薄に

- ・ 新型コロナウイルスをきっかけに地元の人とのつながりが希薄に
- ・ 地域での助け合いができない
- ・ 行事が存続できない

目指すべき姿(第二回検討内容)

- ・ 産業を作るべき
- ・ 伊豆縦貫道を契機にインターを中心としたまちづくりを
- ・ 持続的な新しいコミュニティの構築

《Aグループ》

～稲梓地域の目指すべき姿と整備目標・具体的な取り組み～

このような地域にしたい！(地域の目指すべき姿)

子育てがしやすい

- ・ 子育てがしやすい(人が残りやすく、人が来やすい地域になる)
- ・ 下畑商店を拡充

拠点が必要

- ・ 拠点ができて人が集まるものが必要
- ・ 地域の人たちも行きたい場所に

自然体験ができる

- ・ 自然体験学習ができる地域
- ・ 鮎釣り、ウォーキング、里山風景が稲梓の観光資源になる

- ・ 地元の人にも楽しめるものが結果的に観光になる
- ・ 伊豆縦貫道「黒船」を活かす
- ・ 能動的な取組が必要

目指すべき姿に向かって必要なこと(整備目標・具体的な取り組み)

人が住みやすく、生活を維持できるようにしたい

生活に密着した施設を設ける

- ・ 生活するうえで便利な場所に
- ・ 公園があるといい
- ・ 道路沿いにトイレが必要
- ・ 買い物ができる
- ・ ATMがあると良い
- ・ ガソリンスタンド

住みやすい土地づくり

- ・ 住宅地が建てやすい環境に(法令面)
- ・ 継続性を持って里山の整備する

農業をより良く活かす

農地の集約化

- ・ 農業の再構築・集約化
- ・ 単一作物をつくる

新しい作物を植える

- ・ ニーズ分析
- ・ 天候や地形を踏まえた適地の選定
- ・ 新しい農業(クラフトビール、ブルーベリーなど)
- ・ 農業産地化

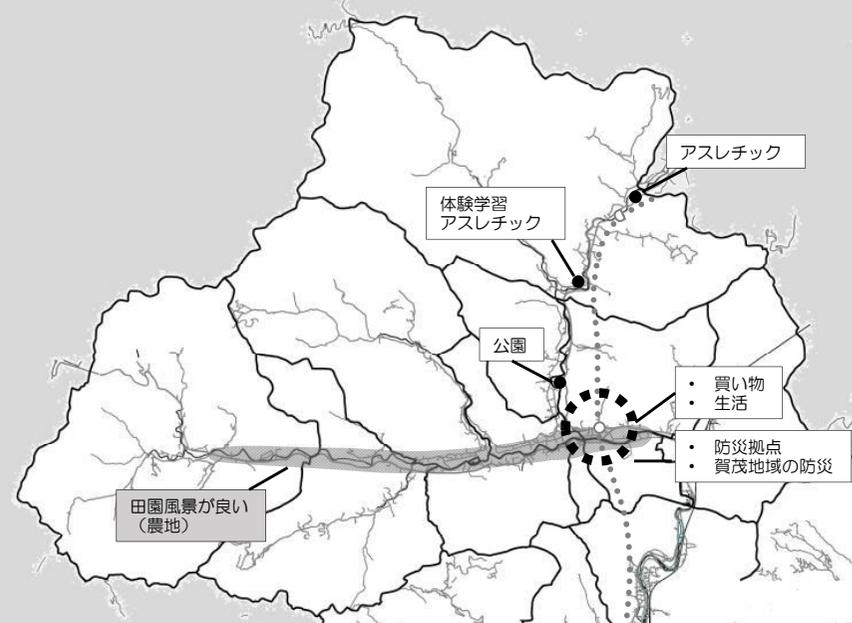
全体の活性化につなげるため拠点整備をしたい

施設整備

- ・ 学校
- ・ 診療所
- ・ ガソリンスタンド
- ・ 公園
- ・ キャンプ場
- ・ 体験学習に活用する
- ・ 発生土を活かした拠点整備(地元への説明が必要)
- ・ もっと地域の意見を聞いた方がよい

災害時には防災拠点

- ・ 防災の拠点として必要
- ・ 防災には大小の駐車場が必要
- ・ 防災だけでなく平時にも利用できる



《Bグループ》 稲梓地域の「売り(良いところ)」と「課題(問題点・悪いところ)」

「売り」(良いところ)

地名「いなずさ」が良い

- ・ いなずさという響きが外国人に好まれる

地域の施設が良い

- ・ おふくろまんじゅう
- ・ 上原美術館(学校教育で活用してほしい)
- ・ 下畑商店
- ・ いなずさ診療所

温泉が出る

- ・ 観音温泉
- ・ 下田セントラルホテル

交通の便の良さが土地利用に繋がる

- ・ 稲梓は交通の中心
- ・ 稲梓駅から河津に抜ける道路(県道河津下田線)の整備により駅周辺が活性化する

三島が通勤圏に

- ・ 稲梓に住んで、三島に勤められる距離

里山が活用できる

- ・ 地域産材の活用
- ・ 遊歩道
- ・ 北の沢から茅原野までが散策ルートになる(伊豆急ウォーク)

川が活用できる

- ・ 川で泳げる(加増野や入谷は川がきれい)
- ・ 釣り

入谷のログハウス

- ・ 稲生沢保育園の園児が毎年泊まって体験学習を行っている

特性(現在の様子)

- ・ 相玉に数件の賃貸住宅がある
- ・ 森林環境税の活用(沿道伐採に活用できないか)
- ・ 昔より寒暖の差がある(山梨県のように果物が育てられるか)
- ・ 昔よりシカは減ってきている
- ・ 蛍が見えなくなった

目指すべき姿(第二回検討内容)

稲梓振興案

目玉商品が必要

- ・ まずは目的となるもの(目玉商品)があって、来てくれる
- ・ 温泉が目玉商品になるのでは(銀の湯や踊子会館のような施設が下田にない)

ペット関連事業

- ・ 伊豆高原はペット関連施設が多い
- ・ ペットが泊まれる宿は清掃が大変

課題(問題点・悪いところ)

土地がない

- ・ 空き家が増えていく
- ・ 宅地がなくて移住できない
- ・ 賃貸住宅がない

公共施設が使われていない

- ・ 山の家の外観が空き家よう(雑草が生えている)
- ・ 加増野ポーレポーレがやめてしまう
- ・ 公共施設を住民が代わって運営するのは難しい

飲食店がない

- ・ 稲梓地域に1件も飲食店がない

若い人がいない

- ・ 働き場所があっても人がいないと意味がない
- ・ 複式学級になっている

交通が円滑でない

- ・ 伊豆縦貫道の開通で国道414号や箕作三叉路が混むようになった
- ・ 箕作三叉路の標識が分りにくい(観光客には西海岸、東海岸がわかりやすい)

里山の管理ができない

- ・ 山の雑木
- ・ 木が大きくなって切れず、(切っても)搬出できない

有害獣がいる

- ・ 有害獣によって田んぼが荒らされる
- ・ シカが作物を食べてしまう
- ・ 花のある里山にしたいとしてもシカの食害にあう
- ・ イノシシよりシカが悪さをする
- ・ 堀之内当たりの川沿いルートはダニがいる
- ・ 花木はシカの食害に合わないためにこまめな選定が必要
- ・ 電気柵がないとダメだが景観的によくない

農地が荒廃している

- ・ 田んぼが荒れていく(須原)
- ・ 補助金をもらって田んぼの草刈りをしている
- ・ 田んぼの後継ぎがない
- ・ 農業の後継者がいない

下田街道の活かし方が難しい

- ・ 下田街道がわかりにくい
- ・ トイレがない
- ・ 下田街道を活かすためには河津町との連携が必要

《Bグループ》

～稲梓地域の目指すべき姿と整備目標・具体的な取り組み～

このような地域にしたい！(地域の目指すべき姿)

温泉を活かしたい

- ・ 温泉を活用したい(温泉を活用した日帰り施設)

農地を何とかしたい(景観を良くしたい)

- ・ 農地が荒れているのでなんとかしたい(有害鳥獣対策も大変)
- ・ 農業で収益を得る(農業×オーナー制度)

自然の豊かさを残したい

- ・ 自然の豊かさを残したい
- ・ 自然を活用したレジャーをつくりたい(河川・山)
- ・ 環境整備をして河川や山で遊べるようにしたい

空き家を何とかしたい(景観を良くしたい)

- ・ 空き家対策をしたい(持ち主の意向が大切)

・ 今は、地域特性を活かした生活体験が観光になる

・ 周辺に観光地が多くあるので、そこに行くまでの立ち寄り場所になるように

・ 道の駅が必要

目指すべき姿に向かって必要なこと(整備目標・具体的な取り組み)

観光客も地域の人も活用し、楽しめる 中心・拠点をつくりたい

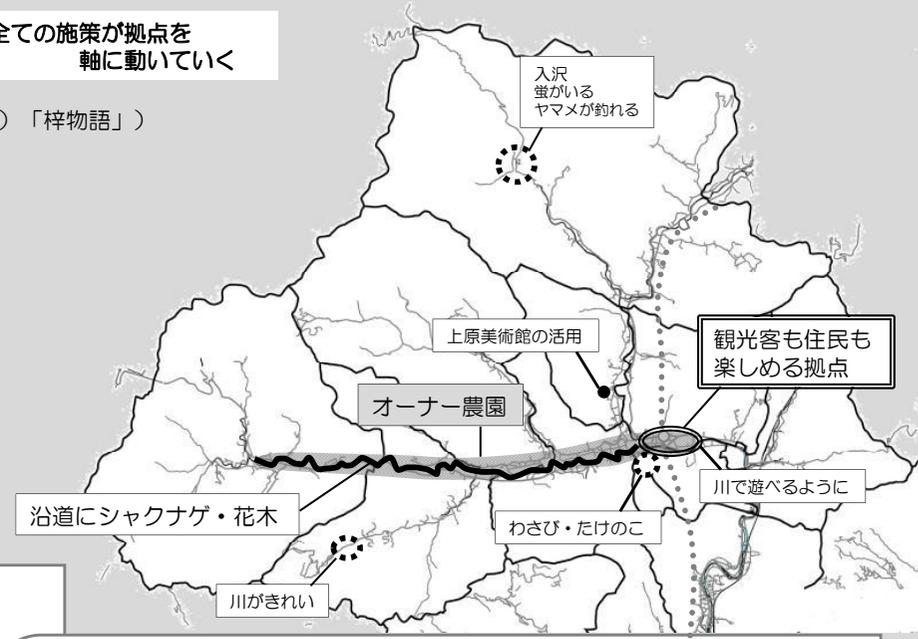
※全ての施策が拠点を軸に動いていく

- ・ 宣伝が必要
- ・ 稲梓にキャッチフレーズを(例)「梓物語」)

- ・ 温泉施設
- ・ 買い物できる場所
- ・ 飲食店
- ・ いなずさの農作物のブランド化(販売・飲食店活用)
- ・ 農作物の加工所(わさび、漬物など)
- ・ 既存のあらゆる施設を拠点に集結させる(診療所、郵便局、駐在所、基幹集落センター(ダンスができる))
- ・ 犬(ペット)と散歩できる公園(ドッグラン)
- ・ 体育館(地域の運動会やスポーツができる)
- ・ 防災センター機能
- ・ いなみん号の拠点

・ 道の駅の中にあるのが理想

- ・ 空き家の掲示板(空き家体験情報)
- ・ 周辺のレジャー案内
- ・ 上原美術館を活用したツアー体験プログラム
- ・ お寺等の催し物(色々な体験メニューあり)との連携
- ・ 稲梓の宿泊業と連携する



農業で収益を上げていきたい

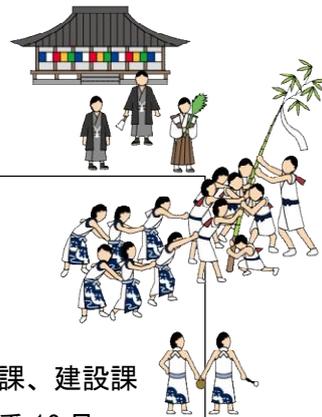
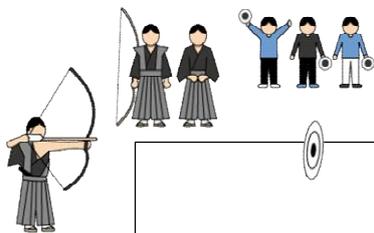
- ・ 農作物のブランド化
- ・ オーナー農園(種まき体験)
- ・ セントラルホテル、千代田屋旅館、観音温泉との宿泊等の連携
- ・ 蕨取り、クワガタ採り、シイタケ狩り
- ・ 高橋養蜂、なごみ果園(イチゴ)、あゆなどいいところが多い

景観を良くしたい

- ・ 花木の方が管理が楽
- ・ 花のある里山は観光客が喜ぶ
- ・ クリスマスローズはシカが食べない

空き家の活用(売りたい・貸したい・移住者に)

- ・ 空き家情報の掲示板設置(ホームページとリンク)
- ・ おためし移住体験(短期利用)
- ・ 山の家を工事業者の宿泊施設として活用する



稲梓地域活性化基本計画

発行日：2024（令和6）年3月

発行：下田市役所企画課、防災安全課、産業振興課、建設課

〒415-8501 静岡県下田市東本郷一丁目5番18号